

令和 2 年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	4 7	学校名	県立土浦第一高等学校			課程	全日制			学校長名	植木 邦夫					
副校長名	片岡 達郎		教頭名	櫻井 隆之			中島 健一郎			事務(室)長名	張替 晴男					
教職員数	教諭	5 5	養護教諭等	1	常勤講師	2	非常勤講師	3	実習教諭, 実習講師, 実習助手	1	事務職員	5	技術職員等	3	計	7 3
生徒数	小学科	1 学年		2 学年		3 学年		4 学年		合計		合計クラス数				
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通科	1 8 5	1 3 5	1 8 5	1 3 3	1 8 5	1 2 9			5 5 5	3 9 7	2 4				

2 目指す学校像

- ・豊かな人間性の涵養と人格の形成を図り、次代をリードする高い知性とたくましい心身を有し、社会の発展に貢献できる人材の育成を目指す。
- ・教職員の共通理解の下、生徒一人一人のより高いレベルでの進路実現を目指し、地域社会の期待に応える進路指導を実践する。

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む）

項 目	現 状 分 析	課 題
学習指導	学びの方法も様々で、学力の差も広がりつつある。授業重視の姿勢を生徒に意識させ、主体的な学びの育成に努めているが、考查の作問や各教科の指導法について、更に組織的に取り組む必要がある。	本校が推奨する自立探究型の学習スタイルによって、学問本来の面白さを意識させ、学習成果の向上を図るための工夫が課題である。
進路指導	最難関の国公立大学や医学部への進学を希望する生徒が多い一方、地元の大学を目指す生徒も多い。双方の希望をかなえるため、個別面談を充実させ、個に応じた指導を充実させる必要がある。	高い進路希望の実現をめざす生徒に対し、早期から進路について考えさせる必要がある。進路指導に係る全学年の進路情報の共有が課題である。
生徒指導	規範意識の高い生徒が多いが、服装面や交通ルール、SNS上のトラブルなど情報モラルの遵守等で指導の必要な生徒が若干見られる。生活全般での注意喚起を促す機会が増えている。	基本的生活習慣の確立、安全・規範意識の高揚を図るために、生徒自らが考える活動をどのように行うかが課題である。
特別活動	文化祭、体育祭などの学校行事は生徒主体で企画運営ができている。8割以上の生徒が部活動に参加している。	学校生活をより充実させるため、学校行事や部活動におけるリーダー育成を積極的に行う必要がある。
働き方改革	生徒及び保護者の期待に添うきめ細かで誠実な対応を行っている反面、週休日等も使って対応している場合もある。	時間外勤務については振替等で対応しているが、振替の取得よりも生徒への指導を優先するなど、完全には実施できていない状況でもある。

4 中期の目標

- 1 教師と生徒の信頼関係を深め、心の居場所が確保できる学年・ホームルーム運営を推進する。
- 2 学力向上に資する特色ある教育課程を編成するだけでなく、自ら学ぶ意欲を喚起し、思考力、判断力、表現力等を育むために、より効果的な教科指導の在り方を組織的に研究、実践する。
- 3 特別活動を充実させ、部活動、学校行事等を通して、自主自立の精神を培い、豊かな人間性を育む。
- 4 個人面接、キャリアガイダンスをより充実させ、生徒一人一人の高いレベルでの自己実現を支援する進路指導を推進する。
- 5 生徒の心情に対する理解を深めるとともに、より適切な指導・助言の在り方を求め、教育相談の充実に努める。
- 6 本校独自のグローバル・リサーチ・プロジェクト（GRP）を展開し、世界の舞台で活躍できるリーダーの育成を推進する。
- 7 働き方改革による教員の心身の健康維持とワーク・ライフ・バランスの向上により、自らの人間性や創造性を高めるとともに、生徒と向き合う時間を確保し、効果的な教育活動を行う。

5 本年度の重点目標

重 点 項 目	重 点 目 標
主体的学習態度の育成と質の高い授業の展開	・授業に対する意欲と理解を高め、自主的・積極的な学習活動を展開する。 ・自ら学ぶ姿勢を高めるとともに、効果的な学習活動を支援する。 ・指導法の研究を各教科で行い、授業改善、指導力向上を図りながら、生徒の深い学びの場の提供に努める。
豊かな人間性の涵養	・基本的生活習慣の確立に努めるとともに、部活動や委員会活動等への積極的な参加を促し、豊かな人間性の涵養と社会性の養成に努める。 ・いじめを許さない心や、他者を思いやる心の育成により、豊かな人間関係づくりを図る。 ・個別面談や教育相談を充実させ、生徒の悩みや問題の解決に向け支援する。
高い「志」実現に向けたキャリア教育の充実	・高い「志」を持ち、常に前向きに努力し続けることにより、自分の進路を自ら切り拓いていく態度を育成する。 ・生徒の自己理解を促し、高い目標設定と継続的な努力ができるよう、個別面談の充実に努める。 ・将来において、各界でのリーダーを目指すべく、個人の可能性を伸ばせるように支援する。 ・学びのプロセスを記述するキャリアパスポートの作成・活用を行う。
グローバル人材の育成	・グローバル・リサーチ・プロジェクト（GRP）を通して、課題研究などの探究活動を推進する。 ・世界に通用する人材を育成できるよう、課題解決能力やコミュニケーション能力、英語による発信力の向上を図る。
学校情報の積極的発信と地域との連携	・学校の情報を積極的に発信するために、学校ホームページや学校通信等を充実させ、本校の魅力を伝える機会を増やす。 ・地域とのコミュニケーションやふれあいの機会を大切にし、小中学校や町内会等との交流を図る。
附属中学校の開校	・附属中学校の開校に向けて、附属中開設校内準備委員会を中心として、滞りなく進める。
働き方改革の推進	・学習指導等の質の維持・向上を図りつつ、業務の効率化を進める取組を推進することで、職員の負担軽減、環境改善を図る。 ・在校時間の自己管理や休暇取得のしやすい環境づくり等を推進し、働き方の意識向上に努める。 ・衛生委員会等で超過勤務・ストレス等を把握し、課題の改善・解決に向けて取り組む。